

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200278		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームみのかも(ユニット1)		
所在地	岐阜県美濃加茂市下米田町東栢井66-1		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171200278&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>全職員が同じ理念基に業務にあたり、できなくなった事より残された可能性を最大限引き出し、最後までその人らしい生活を送る事ができる様、支援をしている。個人を尊重した個別のケアを提供するために入所時のアセスメントから生活歴等の情報収集を行い、また毎日の暮らしの中から可能性を引き出すよう援助を行いながら、自分の思いを表現し、訴える事のできる環境作りや自己決定を重視したケアを心掛けている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体法人との医療連携により、受診体制や重度化・終末期における他施設への移行もスムーズに行われている。地元の陶芸家に陶芸を指導してもらう計画や書道ボランティアに来てもらうなど、地域住民との交流も積極的に行っている。小学校の運動会への参加・分別回収に利用者と共に出かけ顔馴染みになり、また、ホームへボランティアに来てもらうなど様々な交流をしている。母体法人は地域でも名が知られ、グループホームが地域にとって必要不可欠な存在の一つとなっている。天候の良い日は、近くの池の鯉にえさをやりに行ったり、観音様に参拝に出かけたりと、利用者と散歩を行い、季節を味わえるような支援に配慮している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(ユニット1)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型である事を前提に理念を目の届く場所にかかげ職員でその理念を共有し利用者地域にとって安心の出来る施設づくりを目指している。	法人全体の理念に加え、グループホーム独自の理念を掲げ、理念に沿ったケアができるよう職員会議や毎日の申し送り時に確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住人と顔なじみになる様、地域の行事へ参加をするだけでなく、リサイクル収集日を活用したり、散歩の際には挨拶をするなど日常から地域との繋がりを目指すよう職員全員が心掛けている。	地域福祉を支える法人としての位置が確立しており、地域内の行事には積極的に参加をしている。町内のリサイクル回収には利用者と共に足を運んだり、地域の運動会にも参加するなど、様々な取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の支援センターが体操教室や講演会の案内などを出しており事業所としても運営推進会議を通しPRを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、事業所の活動や現状を報告するとともに地域での問題等を話し合い、助言を得ている。又地域、行政、事業所からの情報の交換の場として活用している。	運営推進会議は2ヶ月に1回行い、行政・包括支援センター・自治会長・民生委員・家族代表など多くの参加があり、意見交換を通して、その内容をホーム内でも検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所介護保険担当者とは運営推進会議とおし制度改正などの説明や資料の配布がある。毎月1日に当ホームの待機者数や入居状況・現状報告を行い当ホームの実情を伝えている。	地域包括支援センター主催のネットワーク会議に参加したり、待機者リストを行政に提出するなど、ホームと行政の連携は適切に行われ、情報交換・意見交換の中から常に新しい情報収集に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームにおいて身体拘束検討委員会を発足。身体拘束廃止の基本方針と「拘束」を学び、理解した上で全ての職員がいかなる場合も身体拘束はしないことを前提として業務にあたっている。	身体拘束については、法人内で毎月研修が行われることにより、拘束の弊害への認識は高く、玄関は開放され、外出願望のある利用者にはさりげなく職員が付いて行く支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を学ぶ機会がある。何気ない言葉かけでも虐待につながる経緯を理解し、ケアにあたっている。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護に関する研修に参加後事業所に持ち帰り、職員に研修内容を伝え、理解を深めている。今までに制度を利用された方が2名みえ、後見人の相談を受けた事もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、ご理解をいただいた後締結に至っている。特に退所時や状態に変化についての説明はしっかり納得をして頂いている。締結後でも疑問が生じた時はいつでも質問に応じる旨を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時にその都度要望を伺うように心掛けている。なるべく家族と関わる時間をもつため忘年会などの行事には家族同席で行っている。言いにくい事や遠慮しているため、言えないと思われる事を伝えてもらう方法を考えていきたい。	意見を聞く場の設定の一つとして、職員の手作り料理による忘年会に多くの家族の参加があり、そこで意見を聞いている。利用者の生活面や健康面の報告は、家族の訪問時や電話、利用者の個別報告書などにより、細かく家族に伝えている。	ホームから家族に報告するだけでなく、家族等にはどんな些細なことでも話してもらえるよう、諦めることなく努力され、家族等と共にホームを育てていく運営の実現に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開き各担当からの報告や改善案などを話し合う機会を設けている。その他状態の変化に伴う利用者の処遇に対して必要に応じて職員が集まって話し合いの場を設けている。	朝の申し送り時に話し合ったり、日々のケアの中で少しの時間を見つけては、管理者がこまめに職員の意見を聞いている。利用者の担当者からも意見を聞き取り、職員会議の場で、全職員がその内容を共有し、支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、自己評価や昨年の目標に対しての実績を見直す機会があり、更に目標を持つ事で各自が向上心を持って業務にあたっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けた支援を行い、スキルアップのための協力体制がある。施設内では新人研修、中堅研修と段階的に研修が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月第2水曜日に市内の事業所が参加して地域ネットワーク会議が開催されている。市からの報告の後、各業種に分かれ意見交換会や事例検討会などの勉強会がひらかれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の不安解消や要望を把握するため納得のいくまで話に耳を傾ける様対応をしている。入所後の本人との会話や様子を伺うことにより言葉とは異なる本当の思いを読み取りサービスに活かすよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立った視点で話を聴き、施設で出来ることや出来ないことをしっかりと伝えるようにしている。納得の行くまで何度でも相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の状況を把握した上でどんな事を求めているか、事業所で何が出来るかを見極め、担当ケアマネージャーと連携を図り安心してサービスが受けられる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個人を尊重し、職員と利用者の関係ではなく一緒に生活をしているとの思いで接している。行事や仕事を通していっしょに行動したり楽しんだり、得意な事を活かせるような場面作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所でしか出来ない事、又家族にしか出来ない事を把握し事業所と家族が協力体制をとりながら一緒に利用者を支えていく様努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	続けてきた趣味、楽しみを継続できる様支援している。事業所から稽古事に通ったり、友人が集まる場所に出かけられる様支援している。昨年はクラス会にも出席をされている。	地元の利用者が多く、暮らしていた自宅の近所の嫁入りを見にいったり、馴染みの喫茶店に出かけ、知人や友人との交流が継続できるよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中での場面で利用者同士が協力をし、お互いを思いやれるような環境作りに努めている。また個性を大切にしながらも様子をみながらレクリエーションや行事にお誘いをし一緒に活動できる様声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の環境にスムーズに移行できるよう情報の提供や相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の服装、食事メニュー、おやつ等の選択の自己決定、したいこと、行きたい場所などの思いや希望を伝えることができるようその都度、声掛けをしたり場面作り、遠慮なく訴えが出来るような関係作りに努めている。	日々の暮らしの情報として、利用者の願いややりたいことを日々の中で職員は小さな気づきでも記載している。誕生日の夕食・利用者の行きたい場所など、食事やおやつなども、利用者を選択してもらえよう取り組みを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴の情報はサービスの提供やケアを行う際に重要かつ必要である事を理解し、本人との会話の中からや、家族からの情報の収集に努めケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時のアセスメントばかりでなく毎日の様子を見ることによりその方の状態を把握し可能性の発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の終結時や状態の変化に応じてカンファレンスを開き、常に課題の見直しを図り本人、家族、必要に応じて栄養士、PT、OTから助言を得、意見の交換を行うことにより現状に合ったケアプランを提供している。	利用者には担当職員が付き、利用者をより理解できるよう配慮をしている。法人の栄養士・理学療法士・作業療法士からも助言をもらい、利用者に向けた計画を作成している。見直しは急変時・必要時には修正するよう柔軟に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護・看護記録に毎日記録を行っている。状況の記録ばかりでなく、様子から伺える思いや気づきなども記録し、ケアプラン作成に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋を利用したショートステイサービスを行っている。緊急で利用された事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	寺参り、畑、グランドゴルフ、ご詠歌など地域での集まりや活動に参加できるよう、それぞれ自治会や地域から協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後のかかりつけ医の選択は訪問診療を行っていることを説明し本人、家族の希望の医療機関にかかって頂いている。又それぞれのかかりつけ医に対して情報の提供を行っている。	かかりつけ医は利用者や家族が決定しており、約半数がホームの協力医となっている。家族による受診の場合は受診内容を家族から聞き取り、協力医の往診内容も家族に報告している。かかりつけ医にも情報を提供するなど、体調については配慮を重ねている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護師の他、看護師の公休日や夜間、その他心配毎、判断困難な場合は併設の訪問看護、特養、老健などの看護師にも相談できる関係がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院には地域連携室があり速やかな入退院、入院中の状態、退院の見込み、退院後のケアなどスムーズに対応できるよう協力体制がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化にはその都度ご家族に連絡をし状態の把握をしていただいている。ターミナルケアは行っていないため必要に応じて併設の特養に申し込みを行い状態にあったサービスがスムーズに受けられる様支援をしている	利用者の重度化や終末・医療行為に関しては避けて通れない問題と認識はしているが、その際は他施設へ移行する方針であることを入居時に家族へ説明している。ホームとしての指針や方針を職員間でも共有し、必要時には迅速に対応できるよう配慮をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、定期的に見直しをしている。全職員が緊急時の対応の講習を受講し、その際はAEDの使い方を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会、消防署と合同での防災訓練と夜間召集訓練などを行い災害に対する意識を強めている。事業所単位では災害を想定し、避難経路の確認や歩行できない利用の避難方法を確認している。	近隣の工場や企業と災害時協定を結び、消防署による訓練も行っている。夜間の職員召集や利用者とは外に出るなどのミニ訓練も2ヶ月に1度のペースで行われている。	利用者と離れて暮らす家族の安心を得るためにも、災害時の誘導場所や職員の対処法などを、家族会などの開催時に報告する等の配慮に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを考慮した声掛け、失禁などの処理は全職員が心掛けている。その方の状態にあった仕事を提供し、失敗から自尊心を傷つける事の無い様配慮している。伝達や申し送りは利用者聞こえない様行っている。	管理者と職員は、個人の尊重に心がけ、利用者のペースで、さりげない声かけや着替えは目立たないよう居室内で行うなど配慮している。利用者の記録等個人情報の取り扱いには、注意を払い管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から希望を言われない利用者に対してどちらかを選んだりどうしたらよいかを聞くなど自己決定の場を作る様に支援をし、徐々にでも思いを訴える事ができるよう支援している。権利を守る委員会を利用し、職員にはいえないことも相談できる機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれが楽しみを持てるよう家族と協力をし、ミシン、卓球台など自宅で使用していた道具を持参し、継続した生活の支援をしている。起床時間、就寝時間は規則にとらわれるなく個人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時に化粧が出来るよう時間をつくる配慮をしている。毎日の化粧水、乳液での手入れ、起床時の整容を支援し、家族に必要な品の購入を依頼している。ホームでも時々マニキュアや口紅を塗る時間を作っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の段階から一緒に行き、盛り付け、配膳、後片付けを協力して行っている。無理なく食べる事ができる様、摂取量をひとりひとりに合わせており職員と一緒に食事をとりながら必要に応じて介助、見守りを行っている。	法人の栄養士が立てた献立に添って、利用者と職員が食材の買い出しに出かけている。配膳や野菜の下準備、盛り付けは、得意な利用者が自発的に手伝っている。職員も同じテーブルにつき、見守りながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取が困難になった利用者には刻み食やミキサー食にて対応、医師に相談し栄養状態の把握をしている。食がすすまない利用者に対しては声をかけたり必要に応じて介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後、夕食後の口腔ケアを介助、声掛け、確認と個々に応じて行っている。義歯は毎週水曜日にポリドントにつけ衛生を保っている。個人で毎日行いたい利用者については希望に応じて援助をしている。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄時間に適した誘導を行う事によってトイレでの排泄を促している。尿取りパットや紙パンツを効果的に使用し失敗によるストレスをなくし快適に過ごす事ができるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンは記録され、本人の適した時間にトイレへの誘導をさりげなく行っている。失敗を感じさせないよう、使用するパンツ等の工夫に法人全体で取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ、ヨーグルトなど便秘に効果的は食物を多く摂取し。散歩以外にもできるだけ歩く習慣をつけるよう雑巾掛けや洗濯物を片付けるなどなるべく動く様声かけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置上、週に3回となっているが必要であれば毎日の入浴も対応している。5月は菖蒲湯、12月はゆず湯と季節感を大事にし、入浴剤も効果的に使用している。仲の良い方同士で一緒に入ったり、一般浴が困難な方は併設の機械浴も利用していただける様連携がとれている。	週3回の入浴を基本としているが、本人の希望により毎日入浴する人にも対応可能としている。利用者の重度化により、一般浴の利用が難しくなった場合は、デイサービスの機械浴も使用し対応できるよう考慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や生活習慣に応じた生活の支援と年齢や状態を把握し日中の臥床の勧めや、冷暖房による室温度など快適に過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々、薬の薬剤情報は各ケースに綴じ、薬の効果、副作用に対し周知をしている。処方に変更になった場合は様子をケースに記録し次回の診察日に報告している。また必要がないと思われる薬は医師に相談するなどの働きかけを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な習字や、絵を展示し皆に見てもらえる満足感、お参りに出かけた、好きなコーヒーを飲み喫茶店に行ったり、広告をみて買物に行ったりと楽しみや気分転換ができる生活、物をつくり上げ、自分で使用する達成感を味わっていただける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店やショッピングなどの希望には出来る限り対応している。ご家族との急な外出にも対応できる様、当日また直前の食事のキャンセルにも応じている。文化会館で行われた落語や日本舞踊にも出かけている。	喫茶店やスーパーなど本人が希望する買い物にはできる限り対応し、月に1回の外食は、好みの飲食店へグループに分けて出かける対応を行っている。寒い季節、天候の悪い時、体調の優れない時、時間的余裕のない時などは、ホーム周辺で外気浴を行っている。	

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は原則禁止であるが所持を希望される利用者はその限りではない。必要品の買物をされたり喫茶店でお茶を楽しむなど思い思いに遣っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙サークルにて作成したものをご家族にだしたり年賀状を出す援助を行っている。電話の希望にはいつでも掛けることは可能であり取り次ぎも行っている。クリスマスカードやバースディカード、母の日のカードなども送られてくる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の様子がわかるような生活の場や居間のインテリアや花などから季節を感じられるよう模様替えをしている。有線を利用し馴染みのある音楽や季節を感じる音楽を掃除やレクリエーションの時間にかけている。昔ながらのプレーヤーがありレコードをかけて楽しむ事もある。	利用者は、居室に行ったり、リビングで過ごしたりと、ゆったり自由に暮らしている。吹き抜けの広いリビングには雛人形も飾られ、春を迎える季節感を醸し出していた。洗面所は自発的に口腔ケアができるよう、高さも幅にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの居室を行き来し、おしゃべりを楽しんだりされるが、主に居室では好きな本を読むなどひとりの時間を大切にしている。居間や食堂では他の利用者と一緒に過ごし楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた馴染みの家具、家族の写真、思い出の品、書道の大作、和机、仏壇など自由に持ってきて居室を自由に使っている。現在は全員がベッドを使用しているが畳に布団の希望があれば応じる用意もある。	馴染みの家具は多くはないが、家族の写真や本人の手芸作品が筆筒の上に飾られ、利用者その人その人の趣味に合った部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない面で安心して移動が出来る、トイレの表示を多くしすぐ目につくようにし、自分で洗濯物を出す事ができるよう籠を設置するなどの工夫をし自立した生活が出来るよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200278		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームみのかも(ユニット2)		
所在地	岐阜県美濃加茂市下米田町東栢井66-1		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成22年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(ユニット2)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型である事を前提に理念を目の届く場所にかかげ職員でその理念を共有し利用者地域にとって安心の出来る施設づくりを目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住人と顔なじみになる様、地域の行事へ参加をするだけでなく、リサイクル収集日を活用したり、散歩の際には挨拶をするなど日常から地域との繋がりを目指すよう職員全員が心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の支援センターが体操教室や講演会の案内などを出しており事業所としても運営推進会議を通しPRを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、事業所の活動や現状を報告するとともに地域での問題等を話し合い、助言を得ている。又地域、行政、事業所からの情報の交換の場として活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所介護保険担当者とは運営推進会議をとおり制度改正などの説明や資料の配布がある。毎月1日に当ホームの待機者数や入居状況・現状報告を行い当ホームの実情を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームにおいて身体拘束検討委員会を発足。身体拘束廃止の基本方針と「拘束」を学び、理解した上で全ての職員がいかなる場合も身体拘束はしないことを前提として業務にあたっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を学ぶ機会がある。何気ない言葉かけでも虐待につながる経緯を理解し、ケアにあたっている。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護に関する研修に参加後事業所に持ち帰り、職員に研修内容を伝え、理解を深めている。今までに制度を利用された方が2名みえ、後見人の相談を受けた事もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、ご理解をいただいた後締結に至っている。特に退所時や状態に変化についての説明はしっかり納得をして頂いている。締結後でも疑問が生じた時はいつでも質問に応じる旨を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時にその都度要望を伺うように心掛けている。なるべく家族と関わる時間をもつため忘年会などの行事には家族同席で行っている。言いにくい事や遠慮しているため、言えないと思われる事を伝えてもらう方法を考えていきたい。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開き各担当からの報告や改善案などを話し合う機会を設けている。その他状態の変化に伴う利用者の処遇に対して必要に応じて職員が集まって話し合いの場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、自己評価や昨年の目標に対しての実績を見直す機会があり、更に目標を持つ事で各自が向上心を持って業務にあたっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けた支援を行い、スキルアップのための協力体制がある。施設内では新人研修、中堅研修と段階的に研修が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月第2水曜日に市内の事業所が参加して地域ネットワーク会議が開催されている。市からの報告の後、各業種に分かれ意見交換会や事例検討会などの勉強会がひらかれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の不安解消や要望を把握するため納得のいくまで話に耳を傾ける様対応をしている。入所後の本人との会話や様子を伺うことにより言葉とは異なる本当の思いを読み取りサービスに活かすよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立った視点で話を聴き、施設で出来ることや出来ないことをしっかりと伝えるようにしている。納得の行くまで何度でも相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の状況を把握した上でどんな事を求めているか、事業所で何が出来るかを見極め、担当ケアマネージャーと連携を図り安心してサービスが受けられる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個人を尊重し、職員と利用者の関係ではなく一緒に生活をしているとの思いで接している。行事や仕事を通していっしょに行動したり楽しんだり、得意な事を活かせるような場面作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所でしか出来ない事、又家族にしか出来ない事を把握し事業所と家族が協力体制をとりながら一緒に利用者を支えていく様努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	続けてきた趣味、楽しみを継続できる様支援している。事業所から稽古事に通ったり、友人が集まる場所に出かけられる様支援している。昨年はクラス会にも出席をされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中での場面で利用者同士が協力をし、お互いを思いやれるような環境作りに努めている。また個性を大切にしながらも様子をみながらレクリエーションや行事にお誘いをし一緒に活動できる様声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の環境にスムーズに移行できるよう情報の提供や相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の服装、食事メニュー、おやつ等の選択の自己決定、したいこと、行きたい場所などの思いや希望を伝えることができるようその都度、声掛けをしたり場面作り、遠慮なく訴えが出来るような関係作りに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴の情報はサービスの提供やケアを行う際に重要かつ必要である事を理解し、本人との会話の中からや、家族からの情報の収集に努めケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時のアセスメントばかりでなく毎日の様子を見ることによりその方の状態を把握し可能性の発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の終結時や状態の変化に応じてカンファレンスを開き、常に課題の見直しを図り本人、家族、必要に応じて栄養士、PT、OTから助言を得、意見の交換を行うことにより現状に合ったケアプランを提供している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護・看護記録に毎日記録を行っている。状況の記録ばかりでなく、様子から伺える思いや気づきなども記録し、ケアプラン作成に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋を利用したショートステイサービスを行っている。緊急で利用された事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	寺参り、畑、グランドゴルフ、ご詠歌など地域での集まりや活動に参加できるよう、それぞれ自治会や地域から協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後のかかりつけ医の選択は訪問診療を行っていることを説明をし本人、家族の希望の医療機関にかかって頂いている。又それぞれのかかりつけ医に対して情報の提供を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護師の他、看護師の公休日や夜間、その他心配毎、判断困難な場合は併設の訪問看護、特養、老健などの看護師にも相談できる関係がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院には地域連携室があり速やかな入退院、入院中の状態、退院の見込み、退院後のケアなどスムーズに対応できるよう協力体制がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化にはその都度ご家族に連絡をし状態の把握をしていただいている。ターミナルケアは行ってないため必要に応じて併設の特養に申し込みを行い状態にあったサービスがスムーズに受けられる様支援をしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、定期的に見直しをしている。全職員が緊急時の対応の講習を受講し、その際はAEDの使い方を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会、消防署と合同での防災訓練と夜間召集訓練などを行い災害に対する意識を強めている。事業所単位では災害を想定し、避難経路の確認や歩行できない利用の避難方法を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを考慮した声掛け、失禁などの処理は全職員が心掛けている。その方の状態にあった仕事を提供し、失敗から自尊心を傷つける事の無い様配慮している。伝達や申し送りは利用者に聞こえない様行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から希望を言われない利用者に対してどちらかを選んだりどうしたらよいかを聞くなど自己決定の場を作る様に支援をし、徐々にでも思いを訴える事ができるよう支援している。権利を守る委員会を利用し、職員にはいえないことも相談できる機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれが楽しみを持てるよう家族と協力をし、ミシン、卓球台など自宅で使用していた道具を持参し、継続した生活の支援をしている。起床時間、就寝時間は規則にとらわれなく個人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時に化粧が出来るよう時間をつくる配慮をしている。毎日の化粧水、乳液での手入れ、起床時の整容を支援し、家族に必要な品の購入を依頼している。ホームでも時々マニキュアや口紅を塗る時間を作っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の段階から一緒に行い、盛り付け、配膳、後片付けを協力して行っている。無理なく食べる事ができる様、摂取量をひとりひとりに合わせており職員と一緒に食事をとりながら必要に応じて介助、見守りを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取が困難になった利用者には刻み食やミキサー食にて対応、医師に相談し栄養状態の把握をしている。食がすすまない利用者に対しては声をかけたり必要に応じて介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後、夕食後の口腔ケアを介助、声掛け、確認と個々に応じて行っている。義歯は毎週水曜日にポリドントにつけ衛生を保っている。個人で毎日行いたい利用者については希望に応じて援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄時間に適した誘導を行う事によってトイレでの排泄を促している。尿取りパットや紙パンツを効果的に使用し失敗によるストレスをなくし快適に過ごす事ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ、ヨーグルトなど便秘に効果的は食物を多く摂取し。散歩以外にもできるだけ歩く習慣をつけるよう雑巾掛けや洗濯物を片付けるなどなるべく動く様声かけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置上、週に3回となっているが必要であれば毎日の入浴も対応している。5月は菖蒲湯、12月はゆず湯と季節感を大事にし、入浴剤も効果的に使用している。仲の良い方同士で一緒に入ったり、一般浴が困難な方は併設の機械浴も利用していただける様連携がとれている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や生活習慣に応じた生活の支援と年齢や状態を把握し日中の臥床の勧めや、冷暖房による室温度など快適に過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々、薬の薬剤情報は各ケースに綴じ、薬の効果、副作用に対し周知をしている。処方の変更になった場合は様子をケースに記録し次回の診察日に報告している。また必要がないと思われる薬は医師に相談するなどの働きかけを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な習字や、絵を展示し皆に見てもらえる満足感、お参りに出かけた、好きなコーヒーを飲み喫茶店に行ったり、広告をみて買物に行ったりと楽しみや気分転換ができる生活、物をつくり上げ、自分で使用する達成感を味わっていただける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店やショッピングなどの希望には出来る限り対応している。ご家族との急な外出にも対応できる様、当日また直前の食事のキャンセルにも応じている。文化会館で行われた落語や日本舞踊にも出かけている。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は原則禁止であるが所持を希望される利用者はその限りではない。必要品の買物をされたり喫茶店でお茶を楽しむなど思い思いに遣っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙サークルにて作成したものをご家族にだしたり年賀状を出す援助を行っている。電話の希望にはいつでも掛けることは可能であり取り次ぎも行っている。クリスマスカードやバースディカード、母の日のカードなども送られてくる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の様子がわかるような生活の場や居間のインテリアや花などから季節を感じられるよう模様替えをしている。有線を利用し馴染みのある音楽や季節を感じる音楽を掃除やレクリエーションの時間にかけている。昔ながらのプレーヤーがありレコードをかけて楽しむ事もある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの居室を行き来し、おしゃべりを楽しんだりされるが、主に居室では好きな本を読むなどひとりの時間を大切にしている。居間や食堂では他の利用者と一緒に過ごし楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた馴染みの家具、家族の写真、思い出の品、書道の大作、和机、仏壇など自由に持ってきて居室を自由に使っている。現在は全員がベッドを使用しているが畳に布団の希望があれば応じる用意もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない面で安心して移動が出来る、トイレの表示を多くしすぐ目につくようにし、自分で洗濯物を出す事ができるよう籠を設置するなどの工夫をし自立した生活が出来るよう支援している。		